

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200569		
法人名	有限会社 和		
事業所名	グループホーム 和1・2 (和1)		
所在地	士別市東1条2丁目440番地		
自己評価作成日	平成25年11月4日	評価結果市町村受理日	平成25年12月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JivgyvoCd=0173200569-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・その人の人生を尊重し支援します。 ・その人らしく生活出来るように支援します。 ・健康面で安心出来るよう支援します。 ・御家族・地域の方との関りを大事に支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は士別市の中心部に位置し、近くには市役所、警察署、消防署、小学校、商店街や小公園があり買い物や散歩など、生活に必要な条件に恵まれている。また、近くには、運営法人の事務所、兄弟グループホーム「和2号棟」があり、行事、緊急時の対応等で、協力関係が築かれている。「和む場所で、その人の力を大切にあたりまえの生活をともに生きる」を理念に、職員は明るく、笑顔でやさしく声掛けし、職員の制服は、一体感の中に、個の好みや個性を尊重したベスト風の着衣で、おそろいの中にそれぞれが個性を楽しむことが出来る配慮がなされている。利用者は地域の一員として、お祭り、盆踊り、一斉清掃など地域の行事に積極的に参加し、また幼稚園児が毎年訪問してくれる「幼稚園交流会」を行い、双方が地域の一員として、生活していることを実感できるよう取り組んでいる。家庭的な雰囲気の中で、和やかに、「その人らしい生活」を送ることができるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、入居者さんの尊厳を守り、その人らしく生活出来るよう毎日の実践につなげている。	老いの生活をその人らしく、有意義なものにするため、理念を掲示し共有して、職員全員がそれぞれの立場で、「なごやか」に生活できるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会開催の行事(敬老会・一斉清掃・廃品回収・花いっぱい運動・)に参加させて頂き、ホームでの避難訓練を行う時でも御近所にお知らせし参加して頂いている。又他施設での手作りクッキーを購入し交流を深めている。	町内会の一員として季節ごとの祭事、一斉清掃などの自治会行事に利用者と共に参加して、地域の一員として交流を重ねている。和新聞を町内各戸に配布し、地域とのつながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会での必要性に応じ、対応出来るように対処していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度地域の方、御家族、市の担当者が参加して下さり会議を開き、その中で意見を頂きサービス向上に活かされている。又結果報告を御家族に送付し状況をお知らせしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、地域包括支援センター職員、利用者家族などのメンバーの参加を得て、日常の運営課題や行事の報告を行い、さまざまな角度からの意見を日常の運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から情報を交換していて、運営推進会議においても役所の担当が出席して下さり協力関係を築くようになっている。	市の担当課、地域包括支援センター職員とは運営推進会議に出席願うなど、又関係する問題があれば、電話で照会したり、出向いて事務手続きをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は全ての玄関は開錠しており、自由に外に出られるようにしている。出入り口にはセンサーがあり、インターホンが鳴るようになっており、職員が常に意識して安全の徹底を心掛けている。	外部研修に参加し、報告研修を行って職員が共有し、身体拘束をしないケアに努めている。出入り口には安全確保のためセンサーを利用している。マットのセンサーは、家族の了解を得て利用している。ご家族からの相談や希望があれば、職員の話し合いにより、さまざまな対応が出来る体制は出来ている。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待をテーマにした講演に参加し、発表する時間を設け、職員全員に学ぶ機会を持ち周知徹底している。		

グループホーム 和1・2 (和1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用する入居者が居ない為行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間を設け、説明を行い不安や疑問点を伺い、理解納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの廊下に意見函を設け、何か意見や苦情があれば投函出来る様にしてある。又契約時においても苦情の窓口をお知らせしている。	日常の会話の中で、散歩、買い物などの話題があれば、また、入居前、入居後にアセスメントを整理して利用者の状況、家族の意見が活かされるよう気配りしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り後、時間を設け意見や提案を言ってもらい運営に反映している。職員のモチベーションを高めるために、一人ひとり話を聞く機会を設けている。	職員が仕事の中で、いろいろの問題があれば、その都度、相談話し合いを行う体制は出来ている。日常の中で、利用者の状況を見て、手すりや、入浴のための回転椅子など購入について、即対応できる体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取ろうとしている職員に対して、勤務体制を優遇し各自の向上心を持って働けるようにしている。又取得後は賃金に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市包括支援センターやグループホーム協議会等により定期的に研修案内があり、必要と認められるものは職員交替で受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は実施されなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に会話を多く持ち、入居者さんが何を困って居るのか、何を悩んでいるのか把握し職員全員で話し合い、計画にのせ職員間で周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご自宅に訪問したり、ホームに足を運んで頂いたりして、初期段階で関りを持ち御家族の不安や困っている事を伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望を伺い、必要としている支援を見極めサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現存する能力を活かし、食事の支度・後片づけ・掃除を一緒に行い関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の訴えにて、ご家族に電話をさせて頂きしている。本人の思いを優先し考えているので、事前にご家族には了解を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所に住まれた方が来設して下さったり、馴染みの美・理容室に出かけるなど支援している。	アセスメントシートや会話の中で馴染みの関係を把握し、理美容室、歯科医、喫茶店、お寺、神社など、対応可能なものについては、職員の共有の課題と捕らえ、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎食後の食器拭きをして下さっている中で、入居者さんのお互いの動きを把握して、関わりや支え合う様に支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されてからの退去が主で、その後相談や支援に努めることは現在ありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に話し易い様に自室で思いを伺ったり、帰宅願望が強い入居者さんに対しては事前にご家族に報告し外出の協力をお願いし共に支えるよう支援している。	日常の会話の中で、気付きや問題があれば、介護記録、暮らしのアセスメントシート、面会者名簿、業務日誌に記録して、日常生活の中で活かしている。利用者のありがたい一言が嬉しい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族にアセスメントシートを書いて頂き、分からない事は面会時にその都度伺い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態を記録に残し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度のケアプラン見直しの際、その都度ケースカンファレンスを行い、気付いた点、意見やアイデアを出し合い介護計画を作成している。	本人・家族の意向を反映させて、3ヶ月に一度見直し、介護計画を作成して家族の同意を得ている。職員が共有して日常のケアに活かしている。主治医の意見は受診のとき聞き取り記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて記録を行い、異常時や特記事項が必要とされる時は別用紙を用いて記録し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々臨機応変に対応し柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防署・ボランティアの協力を得ながら、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望に合わせて受診介助行い、ご家族へは面会時・電話・お手紙等で報告させて頂いている。又緊急時の受診に関しては、状況を電話で説明し、その結果も報告している。	利用者、家族の希望を尊重し、いままでのかかりつけ医に継続受診できる。かかりつけ医への通院は基本的に、家族が付き添い、家族が対応できないときは職員が支援している。薬の状況、受診の状況を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんの変調があった場合、看護師に相談し助言を貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に添書を提出し、退院時には看護要約を貰うなど情報交換を行い関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針の同意書や事前指定書を説明して方針を共有している。	契約時に重度化した場合の指針に基づき説明している。看取りの研修を行い体制は出来ている。看護師は4ユニットを担当している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を行い、心肺蘇生法・応急手当・AEDの使い方を習い、マニュアル化している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の対応等、夜間帯設定で全職員が参加し、年3回避難訓練を行いマニュアルを作成し周知している。又事務所内には毛布など災害グッズを完備している。	年3回夜間を想定して地域住民、消防職員などが参加して実施している。地域の参加した人が何をよいかかわからない状況にならないよう役割分担をしている。食糧、水などの備蓄品は近くの事務所に確保されている。	避難場所について、火災は法人事務所、地震は士別小学校を指定して、家族には知らせてあるが、洪水災害は市の指定避難場所は総合体育館である。このことについても避難場所を指定し、家族に知らせることを期待する。更に、和新聞等で定期的に避難場所を知らせることを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さんの一人ひとりの個別の状況により、声かけの方法や言葉遣いを配慮している。	男性は、名字にさん、女性は名前にさんづけで呼ぶようにしている。トイレ誘導などは、時間的な心遣いをして、個の尊厳、プライドに配慮する対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんと話し合いながら自己決定が出来る様声かけし、個々の状況に合わせた対応にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の動きはあるものの、入居者さん優先で一人ひとりの希望に沿って支援している。		

グループホーム 和1・2 (和1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんと職員一緒にその人の力にあった出来る事をして頂いている。(食材切り・食器の用意・盛り付け・食器拭きなど)	プランタンで育てた旬のトマト、ナスなどの野菜の利用や、能力に合わせて、テーブルふき、食器洗いなどを行っている。外食、回転寿司を利用するなど食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状況を把握や考慮した上で提供し、食分量・水分量を記録に残し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの力に応じ声かけ介助し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行い自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握して声掛けや、紙パンツ、パット利用を併用して、自立排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況を把握し記録に残し、水分やヨーグルトを摂ってもらい、個々に応じた予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務体制により入浴日が決まっている為、一人ひとりの希望には添えないが、その日の体調やタイミングに合った時間帯に配慮している。	入浴は週3回を基本とし、利用者の希望の時間に合わせ入浴できる。希望により入浴剤を使用する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣が決まっていて、自室でゆっくり安眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの出来る事出来ない事を把握し、服薬事の支援をし、体調の変化が合った場合ドクターに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのプライベートとしての時間を設け、本人のしたい事・行きたい所・食べたい物など聞き、気分転換や楽しみごとに支援している。		

グループホーム 和1・2 (和1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんの希望により戸外へ出かけられるよう支援し、ご自宅での法事等ご家族に協力してもらい出かけられている。	日常的な散歩をはじめ、野菜の水やり、祭り見学、美容室、希望により、ドライブで釧路、風連、土別神社のお花見などを行い、生活に変化を持たせる支援に心がけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせて、ご家族の了解の下、手持ち金を持って頂き、自ら使用出来る様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける事は無くなっているが、必要と思われた時は、ご家族に電話を取次ぎし支援している。又御家族からのプレゼントが贈られた時には、お礼ハガキを書いて頂く様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の2ヶ所に花を飾り季節感を取り入れ、リビングには季節毎の歌詞や絵など飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	広く開放感のある共用空間は明るいホールで、気温や湿度に配慮し、個々人が好きな場所で、好きなことが出来るよう支援している。体操、ゲーム、おしゃべりなどが自然体で楽しめるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂が共用空間になっているが、一人ひとりの場所が自然と決まり、気の合った入居者同士が隣り合わせになり過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れたものを持ってきて頂くようにし、ご主人の写真を飾り植木鉢を置かれたりと、本人が居心地良く過ごされている。	居室は、個々人の趣味や好みによりそれぞれが、思い出の家族の写真や、ぬいぐるみ、壁に自分の好みのぬり絵を飾り、家具や、テレビ、仏壇など馴染みの物を持ち込んで、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は木製の手摺があり、居室扉の壁にはご本人の写真や造花を飾って居室が分かるようにして、安全や自立した生活を送れるようにしている。		